

木星中緯度帯の斑点と帯状流測定

Spots and zonal flow in the Jovian mid-latitude

浅田 秀人 [1], 竹内 覚 [2]

Hideto Asada [1], Satoru Takeuchi [2]

[1] OAA, [2] 福大理地球圏

[1] OAA, [2] Earth System, Fukuoka Univ

1997-98年にわたる、可視光CCD観測による木星画像から、多数の斑点の位置測定を行い、それより帯状流分布の測定を行った。

観測は、305mm反射望遠鏡と冷却CCDカメラにより、浅田によって行われた。得られた画像より、白斑等の数千個の位置データが測定された。個々の斑点の位置変化(経度変化)より、各緯度帯の東西風速(帯状流)が見積もられる。

これらの結果は、Voyager等によって測定された帯状流分布と比較され、長期の変化(または変化がほとんど無いこと)について議論する。

また、いくつかの斑点は数年以上にわたり存在し続けている。これらの斑点について、その性質について議論する。

1997-98年にわたる、可視光CCD観測による木星画像から、多数の斑点の位置測定を行い、それより帯状流分布の測定を行った。

観測は、305mm反射望遠鏡と冷却CCDカメラにより、浅田によって行われた。得られた画像より、白斑等の数千個の位置データが測定された。個々の斑点の位置変化(経度変化)より、各緯度帯の東西風速(帯状流)が見積もられる。

これらの結果は、Voyager等によって測定された帯状流分布と比較され、長期の変化(または変化がほとんど無いこと)について議論する。

また、いくつかの斑点は数年以上にわたり存在し続けている。これらの斑点について、その性質について議論する。